団体インタビュー（ＮＰＯ法人ちば地域再生リサーチ）

１　日　時　平成２７年１２月１７日（木）１１：００～１１：３０

２　場　所　住宅政策課内

３　対象団体

ＮＰＯ法人ちば地域再生リサーチ

４　インタビューの結果

（１）活動を始めようと思った理由・きっかけは？

・　大学で建築学を専攻し、団地の空き家の活用をテーマに研究していたが、そのときにちば地域再生リサーチとのかかわりがあったことがきっかけ。

・　大学では、調査・研究が中心だが、ＮＰＯでは、研究もするが実践の比重が大きいことが魅力で、当法人の活動に参加しようと思った。

・　研究室を卒業した後、多くはないが、ＮＰＯの活動に参加したり、自分でＮＰＯを立ち上げる者もいる。

・　ＮＰＯの活動に参加するのは比較的女性が多い。ＮＰＯのスタッフはそれほど収入が多くはないが、それでもやりたいという人と、結婚して家庭に入った後、やはり社会の役に立ちたいという思いで参加する人もいる。

・　男性は、やはり家庭を支えていかないといけない面があり、収入がそれほど多くないＮＰＯのスタッフとして活動するのは難しいのが実情である。

（２）団体の活動を進めていくうえでの課題は？

・　収入源の内訳は、7割が国や自治体の補助事業等で３割が自主事業となっている。

・　補助事業では、期限が１年から３年に限定され、有期限の事業であるため、団体の収入が安定しないという課題がある。その都度新しい事業を作っていく必要がある。

・　当法人の活動には、専門性が求められるため、人材の確保が重要になる。現在は人材がそろっているが、事業に継続性、安定性がないと、人材を維持していくことが難しくなる。

・　付き合いのあるマンション管理組合の場合には、アンケート等に協力してくれる。また、当法人は千葉大の教授が代表を務めていることもあり、比較的信頼感はあるが、一般的にＮＰＯは認知されていないのが現状。

（３）団体の活動を進める上で、市にサポートしてほしいことは。

・　今回の協働事業で、空き家のオーナーにアンケートを送付したが、その際市の封筒を用いた。市の取組みということで、信用度が増したと思う。

（４）アンケート調査の結果によれば、８割以上の方が、身近な地域の課題について考えることがあると回答している。しかし、思いはあっても行動を起こしている人は少ないと思う。これらの人はどうしたら一歩踏み出せるか。

・　ＮＰＯにとって、人材の確保は共通する課題。団体の考え方に賛同し、かつ専門性のある人材が必要だが、なかなか確保するのは難しい。
・　ＮＰＯと、家庭に眠っている有能な人材が出会う機会があるといい。
・　ある程度生活が担保されているような人に、ＮＰＯという働き方があるということを知ってもらうことが必要。
・　市が出会いの機会を創出するか、若しくは、そのような取組みをしている団体を市が支援するというやり方もある。